

—最近のニュースより—

【本ページは、TV や新聞などで報道された自然現象や科学技術などについて、その内容を要約して紹介するコーナーです。本研究会誌の発行は 2 ヶ月に 1 回でありますので、会誌がお手元に届く頃には既に過ぎ去った情報も含まれていますがご了承下さい。読者の気付かれた報道があればご寄稿下さい。事務局より。】

会長 野口駿雄

遂に彗星へ大接近

2004 年 3 月 2 日、ヨーロッパ宇宙機関による宇宙探査機「ロゼッタ」は「チュリュモフ・ゲラシメンコ彗星」を目指して打ち上げられた。2014 年の夏に彗星から約 100Km の距離まで接近し、その姿を捉えたと報じられた¹⁾。それによると、「長さは約 4Km で、形状は、二つの塊が繋がった形であった。その後、彗星は太陽に接近するに従い、その熱により溶けて尾を引き始めたが、大きな変化は見られなかった。しかし、2015 年 1 月以降からは彗星表面の穴から次々とガスが噴出し、尾が伸びる瞬間やガスの噴出する瞬間を鮮明な映像として捉えることに成功した。彗星の近くには多くの白い粒や彗星から飛び出した氷の欠片などが観察された。」との内容であった。

参考資料

- 1) 2015/8/1 D011 ch., 人類初 目撃! 太陽系の秘境 冥王星&彗星 大冒険 (7 月 25 日放送の再放送)

彗星放出のガスからアルコールを確認

今年 10 月に、NASA (アメリカ航空宇宙局) などの研究チームが、今年初めに太陽に最も接近した「ラブジョイ彗星」の観測データを解析した結果について 23 日に発表があった。と報じられた²⁾。

その報道によると、『今年 1 月に太陽に最も近付いた「ラブジョイ彗星」の尾をスペインにある電波望遠鏡で詳しく観測した結果、この彗星から放出されたガスの成分にエチルアルコールが初めて確認され、その量は、多いときで 1 秒間にワインボトル 500 本分に上ることがわかった。この彗星が放出するガスからは、更に、1 種の糖類と合わせて 21 種類の有機分子が確認されたと報告している。今回の解析結果は、有機物を含んだ彗星が、太古の地球に衝突したことが生命の誕生に繋がったという仮説を検証する上で、有力な手掛かりの一つになると見られている。』との内容であった。

参考資料

- 2) 2015/10/25 d NHK 「NHK データ 2 BS 701 ch」 全国のニュース